
白き花よ永遠に

晴花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白き花よ永遠に

【NZコード】

N3411BA

【作者名】

晴花

【あらすじ】

高校一年の伊興萌花は交通事故で死んでしまったが神様の間違いだ
といふことが発覚

萌花は元の世界に再転生するため

異世界で青龍、白虎、朱雀、玄武の扇を探し聖地に収める旅に出た
一次元小説です 不定期更新 +表示は番外編です

「ひの世界（前書き）」

アドバイスを貰つたのですこし変更しました
それでもグダグダです（^_^;）

目が覚めると果てしなく広がる青空に沢山の虹が架かっていた

「何が起きたんだろ・・・」

「お前は死んだんだ」

突然頭の中に声が入つて来た

それはとても綺麗にそしてとても優しい男の人の声だった
きっと美青年なんだろうなあ

「誰?」

「・・・世界の創造主、かな?」

一瞬間はあつたものの答えてくれた
考えるほどか?今の答え

「世界の創造主と云つことは・・・」

頭の中で式が勝手にできていく
世界の創造主=神・・・

「要するに神様?」

「人間の言葉で言えばそうだな」

・・・本当に居たんだなあ

いやいやいや、そんなことより

「ここは何処ですか?」

「死後の世界だ」

「そう・・・ですか・・・」

頭の中で映像が流れる

道路の真ん中にいる子猫にトラックが迫つてくる

私はそれを見て道路に飛び出した

身体にトラックが思いつきスピードを出してぶつかり弧を描き道
路に叩きつけられ吐血している

私はやがてピクリとも動かなくなつた

・・・あ死んだんだやっぱ

「・・・で、何か用ですか？」

「いや・・・えっと、実はな・・・」

言いよどむなよ神だろ

「えっと・・・間違いだつたんだ」

「え？」

何が間違い？

「お前は本当は死ぬ予定じゃなかつたんだ」

・・・神よ Go to hell! - - !

「はあ！？ふざけんなよ！？間違いで人殺すかあー普通！
ありえねえし！？ありえねえよ！？まじありえねえだろ！- - - .

「いや・・・ちょつ、落ち着け！」

「落ち着いてられるかあ！？」

まだ生きれたのに間違いで死んだのに落ち着いてられるか！

「ああ、もう！落ち着けって！」

そう言って現れたのはめちゃくちゃかっこいい美青年

ヤバい、想像よりかっこいい！

白銀の髪の毛に青空の色に似て澄んでいる瞳大人っぽい顔立ちに声・

・・・タイプだああ！！！！！

つて容姿に騙されるな私！

「急に黙つてどうした？」

「・・・何でもないです」

「そつかじやあ本題だ、おまえの死が間違いだつたから元の世界への再転生のチャンスをやる、まあチャンスと言つよりは頼み事みたいもんだ」

「頼み事？」

頼み事つてなんだろ？

「これからお前には異世界に行つてもうつせいで青龍、白虎、朱雀、

玄武の扇を探しても、ひづり

「その後は？」

「4つの扇を聖地に収めるんだ」

「聖地って何処ですか？」

「聖なる森と言われている森の奥に神殿があるそこに納めるだけでいい」

それで再転生するのか・・・

よし！行つてやるうぢゃないか！

「わかりました任せてくれさいーー！」

「よし、じゃあ頼んだぞ」

神は私の頭に片手を翳した

すると光が身体を包み込んだ

「そうそう、異世界での名前はモカ＝イコシャだからな」

「わかりました」

光が強くなりそして私は気を失った

「」の世界（後書き）

・・・なかなかのグダグダでしたね（^—^；）
仕方ないんです！
初投稿なのですから！

次話はグダグダしないよう頑張つてみたいと思つています

十 登場人物紹介 十

主人公
伊輿萌花
いこしもか

性別 女
年齢 17歳

外見 髪は黒髪のショート瞳は金色

装備可能武器 双剣 弓矢 扇

能力 武器召喚

性格 大人しいけど興奮したり怒ると男勝りに
トリップ後の名前はモカ＝イコシャ

準主人公達

アルベツト＝バイルト

性別 男

年齢 28歳

外見 髪は茶色っぽい金髪瞳は灰色

装備可能武器 長剣 レイピア 銃

能力 治癒 聖獣召喚

性格 すこし変態

サリーナ公国出身の聖剣士

萌花と一緒に旅をすることに

エナ＝ルツトカイン

性別 女

年齢 23歳

外見 髪は灰色で瞳は紅色

装備可能武器 杖 短剣 魔導書

能力 攻撃魔法 補助魔法

性格 いつでも冷静

タナヤ帝国出身の魔導士

萌花には優しいがアルベットには冷たい

†登場人物紹介†（後書き）

とりあえず主人公達の紹介を
他の登場人物は時期がくれば出しますので

異世界の国サリーナ

気がつくと街に入るための大きな門の前にいた
しかもトランクにひかれたときとは違つ格好をしていた
神楽を舞う巫女が着るような服で
袴は黒千早は白だった

「えつと・・・ここ何処だろ」

とりあえず看板等がないか探してみるがそれらしいものはなかつた
「まじで何処だろ」

「何だ、お前知らないで来てるのか?」

後ろから声かけられた

後ろを振り返つてみると茶色っぽい金髪に灰色の瞳そして剣士のような格好をしていた

「あなたは?」

「俺はアルベット＝バイルトっていうんだアルって呼んでくれそう
いうお前は?」

「い・・・モカ＝イコシヤ」

危ない危ない本当の名前言いそつになつたよ

「イコシヤ? 変わった名字だな」

アルは私をまじまじと見てくる失礼な奴だな

この人に聞くのは癪だけどいちおうなんて言つ場所か聞いとこ

「そんな事より此処は何処?」

アルは大きな門を見上げながら説明する

「此処はサリーナという国だ」

「サリーナ・・・」

門から見える街は行き交う人々で賑わっている

「歴史ある街並みと国の中に大きな広場があるのがこの国の特徴だ」

確かに街並みはどれも海外に行つたときにみた昔ながらの西洋の街

並みだ

奥に見える大きな城はドイツの城に近い造りだと思われる
「勝手に入つていいのかな？」

そう呟くとアルは馬鹿にしたように笑つた

「お前馬鹿か？誰でも入れるに決まつてるだろ」

「馬鹿じやないから馬鹿つて言つな」

とりあえず門の中へ入つてみる

「モカ、お前は一人で旅をしてるのか？」

「ただけど、聞いてどうするの」

アルを見上げるとアルは明後日の方向を向いた

「いや、見たところ一人みたいだつたから一人旅なのかなあ、と思つた」

仲間とかいいよなあ

頼りになるし

「まあ仲間は欲しいけどねえ」「・・・なあ」

妙に真剣に言うアル

「何？」

「会つたばかりだけどよ、一緒に旅しないか？」

「は？」

何言つてんだ

私と旅をしたいと思う理由が分からぬ

「女一人だと危ないだろうし、力も弱そだから危なつかしいと言いかなんというか」

「要するに心配だ、つて？」

そういうと照れたように

「そういうことになるな」

と言つた

「まあ、一緒に旅するのはいいけどあと一人いたらなあ・・・」

仲間が男一人だけだと危険があるかなあ

「・・・別に一人でよくねえか？」

「一人だと心細い」

アルはふう、と溜め息を吐いたあと頭を搔きながら言った

「じゃあ、ギルドで探そつぜ」

「ギルドってあるんだ・・・」

もうゲームの世界だろ

こつなつたら魔物とか出るんじやないか?

まあ、そうなつてもいいかな楽しめそうだし
でもまずは旅の仲間探しだ!!

異世界の国サリーナ（後書き）

まだグダグダですね(^ー^ ;)
早く上手くなりたいなあ

あとサブタイトルをしつとりにしようかなと思つてます
(小説タイトルも含みます) (番外編は除きます)
なので今はこうなつてます
白き花よ永遠に にじの世界 異世界の国サリーナ、です
続けられたら続けます

今後もよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3411ba/>

白き花よ永遠に

2012年1月10日19時56分発行